

【目的】 交通体系整備、人口減少や長寿命化、技術革新等の環境変化を展望し、県民主役の未来を切り拓くため、将来像を共有する長期ビジョンを策定

【コンセプト】 みんなで描こう「福井の未来地図」（策定プロセスに多くの県民が参加し、将来構想を策定。県民一人ひとりがプレイヤーとなり実現に向けて行動）

【構成】

『長期ビジョン』（概ね20年後を想定）

- ・北陸新幹線・リニア中央新幹線の全線開業後の、2040年頃の将来像を展望

『実行プラン』（5年間）

- ・長期ビジョン実現のための5年間の計画
- ・併せて地域毎（福井坂井、丹南、奥越、嶺南）に戦略・施策を整理
※次期「ふくい創生・人口減少対策戦略」を一体的に検討

【検討体制】

「長期ビジョン推進懇話会」を設置

各分野の代表、有識者等による検討会議

（委員のほか、県民が参加できる講演会等も開催）

【意見集約および策定スケジュール】

第1段階（7月～9月）

2040年までの環境変化を見通し、福井の将来像について県内全域で意見交換会（県民参加）

- ・市町別 各市町に出向き、住民代表等と意見交換
- ・世代別 若者、子育て世代など、各世代とワークショップ
- ・分野別 個別分野の団体等と意見交換

県民アンケート実施

第2段階（10月～12月）

目指す将来像・方向性をまとめ、中間とりまとめを作成

第3段階（1月～3月）

長期ビジョンの最終版を策定

【2040年までの主な環境変化】

（1）人口減少

- 2040年に、県内人口64.7万人、高齢人口はピークに
 - ・福井県の人口は、2000年の82.9万人を最大に、以降は減少
 - ・高齢者人口は、2040年頃にピーク（24.1万人、高齢化率37.2%）

（2）長寿命化

- 「人生100年時代」。高齢者も健康・元気に
 - ・2001年から2040年にかけて、平均寿命・健康寿命とも約5歳延伸
 - ・県内の100歳以上の高齢者は、18人（1990年）から507人（2015年）に増加
「日本では、2007年に生まれた子どもの半数が107歳より長く生きる」との推計あり

（3）大交流化

- 高速交通体系の整備により、国内外に開かれ、立地条件が格段に向上
 - ・北陸新幹線 2023年 福井・敦賀開業、2030年 全線開業（要望）
 - ・中部縦貫自動車道 2023年 大野・油坂道路開業（要望）
 - ・リニア中央新幹線 2027年 名古屋開業、2037年 全線開業（最短）

（4）技術革新

- 新たなテクノロジーの活用により、産業や生活の質が飛躍的に向上
 - ・AI、IoT、ロボット、ドローン、自動走行、ビッグデータ、5G 等

【「長期ビジョン」検討の観点】

選ばれる福井

「福井らしさ」を大事にし、魅力を高めることにより、県民が誇りを感じ、人・企業を呼び込む福井の未来を、いかに実現するか

「福井らしさ」を活かす。暮らしの積み重ねの中で受け継がれてきた人々の営み、自然風土や歴史性、地域社会のつながり、農林水産業をはじめとする産業力など、すべてが「福井らしさ」であり、「文化力」。こうした資産を守り、価値を高める戦略を描くことが重要ではないか

誰もが主役の福井

すべての人が輝き、互いに支え合い、将来にわたり安心して暮らせる福井の未来を、いかに実現するか

福井県は人が宝。人口減少により一人ひとりに期待される役割が広がる中、年齢や性別、障がいの有無等に関わらず多様性を認め合い、人生100年時代に誰もが様々なことに挑戦できる「全員参加型」の共生社会を実現することが重要ではないか

成長する福井

交通体系の進展や技術革新を活かして、新たな可能性を拓き、活力ある豊かな福井の未来をいかに実現するか

ビジネスチャンスが広がる福井県。立地条件の向上を活かして人・モノ・情報の行き来を活発化させ、AI・IoTなど新たな技術を産業や地域の課題解決・高度化に活用し、暮らしの質を向上させることが重要ではないか